

『甲子園の神整備』

「夏草や ベースボールの 人遠し」子規の句です。

「ベースボール」を「野球」と翻訳したのは子規だったことは、有名な話です。

病床に臥す子規が、遠くで野球を楽しんでいる人たちの声が聞こえてきて、自分も参加したいとの思いから発した句と思います。

新型コロナウイルスのため、プロ野球も遠くで見ている現在の日本とよく似た状況です。

私の診療所は、甲子園球場の近くにあり、ホームランなどの声援は風に乗って聞こえてくることがあります。昼には、球場近くの喫茶店で日替わり弁当を食べるのが日課となっています。

その店では、必ずKさんとお会いします。50歳ぐらいの禿頭(とくとう)の紳士でまるで、ユルブルリンナーです。彼が、勤めている会社が阪神園芸と云い、超有名な園芸会社です。

「阪神園芸 甲子園の神整備」という本にもなっています。

それは、2017年10月15日のクライマックスシリーズ第2戦の甲子園での出来事でした。

天気は雨、誰もが試合中止と思われたこの状況を一転、今まで培ってきた技術で9回まで試合を完遂させたのです。

このことは、大きくニュースでも報じられました。

試合も「阪神 VS De NA」というよりも、「阪神園芸 VS 雨」というほどのありさまでした。

雨対策としては、シートを球場全面に張り巡らせ、そこで水を吸引してからシートを剥がすといった方法をとっているようですが、詳しい技の中身まではわかりません。このようなことは阪神園芸にとっては、当たり前のごとく、阪神園芸ショーを見に行くファンがいるほどです。残念ながら、この試合で阪神タイガースは負けて、結句、日本シリーズには出場できませんでした。

阪神園芸の話に戻ります。

芝生は、鳥取の「チュウブ」という芝生産・販売会社からの特製です。

中国地方の最高峰・大山の火山灰でできた黒ボク土の土壌は、きめ細かい砂丘地の良質な砂だそうです。栽培された芝は、水はけがよく、擦り切れなどからの回復力に優れているのが特徴で、新国立競技場の芝にも採用されました。

搬送には、鮮度を保つために各車両にドライアイスを搭載しているようです。

阪神園芸がいかに凄いかという逸話として、現役を引退する阪神の和田豊選手が、引退セレモニーの挨拶の中で「常にいいコンディションでプレイさせていただいた阪神園芸の皆さん有難う。」と述べ、阪神園芸のグランド管理のレベルの高さを褒めたたえました。

選手が感謝するほど、阪神園芸は、甲子園球場を野球がしやすい環境にしていたのだと感心しました。

